

水不足深刻化を懸念

アジア都市ジャーナリスト会議

7カ国記者 連携に意欲

参加した記者らはイン

ド、スリランカ、インド、ネシア、ベトナム、フィリピン、中国、日本の順に報告。地下水汚染や地盤沈下、洪水の頻発といった問題を取り上げ、水不足の深刻化を訴えた。

続く討論では、濁水をきっかけに福岡市で節水の取り組みが浸透していることに注目が集まった。

西日本新聞の安部鉄也記者は、ダム貯水率を毎週掲載している実例を紹介。節水への意識付けがなされている。他国のメディアもこうした形で市民に訴えることが可能」と提案した。

第7回アジア都市ジャーナリスト会議が29日、福岡市博多区の博多エクスセルホテル東急で開かれた。日本を含むアジア7カ国のジャーナリストが「水環境の現状と課題」をテーマに論議。都市化の進展で水不足が深刻化していくとの認識を踏まえた上で、節水などのノウハウを交換し解決へ取り組むことで一致した。国連人権居住計画（ハビタット）福岡本部の主催、西日本新聞社などの後援。

またベトナム紙「サイ

ゴン解放」のクエン・ハム・バオ・トリユック記者は「メコン川が多くの

国を流れてベトナムで海に注ぐように、水問題は国境を越える。他国のメディアと意見を交わす意味が大きい」と述べ、ジャーナリスト同士の連携の大切さを強調した。

(詳報を後日掲載します)